

奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方(5章) 構成

(前文) 奄美地域の国立公園

奄美地域 : 固有の動植物と生態系が育まれ、国際的・国内的に価値の高い自然資源
自然資源と人々の暮らしや意識の密接なつながり

このような特性を持つ奄美地域の国立公園は、

新しい
国立公園！

生態系管理型国立公園 : 亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系全体を管理する国立公園

環境文化型国立公園 : 数百年単位で自然と人が深く関わり調和してきた関係そのものを扱う国立公園

また、地域とともに作り、地域に貢献する国立公園に

(1) 国立公園として保全・活用を図ることが適当な地域

- ・ 奄美に固有の動植物が生息・生育するために十分な範囲の照葉樹林（特に小河川などの水系に配慮し、森から河川、海までの連続性重視）
- ・ 自然海岸が残る海岸線及び周辺海域（現在の奄美群島国定公園を中心として）
- ・ 伝統的な集落景観の残る集落も一または複数含めることが望ましい

(2) 国立公園として保全・活用を図る際に特に留意すべき事項

- ① 生態系の管理
 - ② 亜熱帯照葉樹林における持続的な森林管理
 - ③ 環境と文化の融合
 - ④ 持続可能な観光利用の推進
- ※ 内容は別紙参照

(3) 国立公園とその他の地域との関係

- ・ 関係行政機関、民間団体、地域住民など、地域全体が協力して国立公園を中心とする奄美地域全体の自然資源を保全・活用していくための取組が重要

(4) 国立公園と世界自然遺産との関係

- ・ 奄美地域において世界自然遺産の価値を持つと考えられるのは、多くの固有動植物の生息・生育地となっている亜熱帯照葉樹林を中心とする地域
- ・ 国立公園区域と世界自然遺産の推薦地域は必ずしも一致しないが、推薦しない地域についても、推薦地域と一体としてその適切な保全・活用を図っていくことが重要